

第74回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県代表決定戦

2021年11月23日

会場: エントリオ(豊田合成記念体育館)

■男子決勝

星城高等学校	3	25	第1セット	22	2	愛知工業大学名電高等学校
		25	第2セット	27		
		14	第3セット	25		
		25	第4セット	15		
		15	第5セット	12		

東 (2年)	浜崎 (3年)	先 発 メ ン バ ー	清家 (3年)	笹本 (2年)
細川 (2年)	伊藤 (2年)		北田 (2年)	藤井 (2年)
田中 (3年)	安達 (3年)		小田 (3年)	田中 (1年)
奥野 (1年)	薬真寺 (3年)	リベロ	瀧澤 (2年)	中村 (3年)

<戦評>

71回大会以来の顔合わせとなった男子の決定戦は、第1シードの星城高等学校(以下星城)が、第3シードの愛知工業大学名電高等学校(以下名電)をフルセットの末下した。星城にとって2年連続の栄冠は、中根監督にとって初めての春高全国大会への切符となった。

第1セットは、星城・浜崎の強烈なサーブが炸裂した。浜崎はこのセットだけで4本のサービスエースを奪い、序盤と中盤に効果的に加点した星城がセットを先取した。

第2セットは、名電が二度の3連続得点を奪取するなど優位に進めた。打っては小田と笹本のサイドからの攻撃が安定しており、守っては相手にサービスエースを1本も許さぬ堅いレシーブでペースをつかんだ。終盤デュースに突入したが、最後の1点は北田がサーブで決めた。

第3セットは、さらに名電が加速、奪った3連続得点は四度に上った。特にセッター藤井が相手ブロックのマークを外す巧みなトスワークを見せた。攻撃陣もそれに呼応し、アタックミスは1本も出さない安定感で相手を圧倒した。

それまでの流れから名電優位かと見られた第4セットだが、星城は序盤から粘りのバレーを見せて長いラリーをことごとく決めきると、5-6からの4連続得点で抜け出した。10-9からは守りに守って攻めに攻め、15点奪う間に相手に6点しか許さなかった。セッター田中が、決定力の高いミドルブロッカー細川をおとりにして時間差攻撃やバックアタックを使えば、アタッカーが次々に相手コートへスパイクを打ち込んだ。細川自身も、トスが上げれば相手のブロックおかまいなしの果敢な攻撃でチームに貢献した。

勝負のかかった第5セットは、一進一退のせめぎ合いが11-11の終盤まで続いた。名電・小田が後方からの難しい二段トスをレフトから打ち切ったシーン、高い打点を最後までキープし続けた星城・伊藤のライトサイドからの攻撃など、見応えのある場面が続いたが、クライマックスは最後に訪れた。12-11から第1セットの再来、浜崎の2本連続サービスエースで星城が王手をかけた。最後は相手ブロックにタッチネットがあり、白熱した好ゲームにピリオドが打たれた。

以前の時間差攻撃主体とはまた違った味のバレーを組み立てて臨んだ名電だったが、勝利までわずかに及ばなかった。